

た。

今後の課題として、「関係機関との連携の強化」「相談場所の確保」「受入企業の理解」などがあげられている。

また、ひきこもりの方の就労支援に関するネットワークや連絡協議会等に関しては、あると回答したものは93か所(18.6%)であるが、若者サポートステーションでは38か所(71.7%)であった。ネットワークや連絡協議会等が必要だと思うものは、すでにあるもの、計画中のものを含めて、325か所(65.1%)であった。

#### D. 考察

ひきこもり青年の就労支援に関しては、本人が「精神障害者保健福祉手帳」を有しているなどの場合においては、障害者雇用支援として、障害者就労支援センター、障害者地域生活支援センター等の利用など、有していない場合などは、ハローワークやヤングハローワーク、若年者就業支援センター等の一般就労支援の利用などといった両面での連携が重要である(図1)。しかしながら、必ずしもこれらの利用だけでは、十分な就労支援を行うことが困難な現状にある。今回、これらの現状と課題について検討するため、全国の就労相談・支援機関を対象として、ひきこもりに関するアンケート調査を実施した。

対象機関は、ハローワーク、ヤングハローワーク、若年者就業支援センター等の一般就労支援機関と、「障害者施策」の一環として支援を行っている地域障害者職業センター、障害者就業・生活支援センター、及び若者の自立支援を行っている若者サポートステーションである。

対象は、全国の就労相談・支援機関799機関であり、499機関(回答率62.5%)より回答を得た。

半数以上の機関が、ひきこもりの就労相談を受けていたが、本人よりもむしろ家族からの相談の方が多く見られた。家族の方が、本人の状況に不安を感じ、相談機関に向かっているという現状にある。

ハローワーク等では、紹介でないものが142か所(39.1%)と最も多く、ハローワーク等の機能が、一般的によく知られていることによると思われる。一方で、障害者就業・生活支援センター等では、保健所・福祉事務所などからの紹介が多く、保健所・福祉事務所などに相談に出かけた本人や家族が、これらの機関への紹介を受けているものと考えられる。

しかし、現実のひきこもりの就労相談については、全体の303か所(60.7%)が困ることがあると回答している。

具体的には、就労能力がない、十分なコミュニケーションがもてないなどを4割以上の機関が上げている。また、この他にも、「家族のみ相談に来て、本人は来ない」「家族と本人に意思の食い違いがある」「本人に就労意欲がない」「本人が話をしない」などの問題が上げられており、これらは本来のハローワークの機能では十分にその役割を果たすことが困難な内容ではないかと考えられる。これは、一般に、ひきこもり状態にある本人あるいは家族が、相談のための動機付けとして「就労」を考えていることにあり、本来であれば、ハローワーク以外の相談機関が求められるものである。

今後、これらの相談機関、相談体制の充実が重要な課題となり、これらの機関が、ハローワーク等の機関と適切な連携を行えることが望ましいと考えられる。

また、「本人の能力(コミュニケーションや経験など)不足」などに対する訓練的機関や、「相談が継続しない、関係を築きにくい」「相談をうける側の体制が不十分である」「疾病や障害の可能性を感じるが対応できない」「十分な就労環境がない」などのさまざまな問題点に対して、相談機関、保健医療機関、労働機関などの機関の新たな体制作りや連携が求められる。

困ったときの紹介・相談機関として、ハローワーク等では、地域障害者職業センター、障害者就業・生活支援センターの回答がもっとも多い。これは、ハローワーク等の中で対応が難しい場合に

は、むしろ障害者としての就労支援・生活支援に向ける傾向があるためと思われる。一方で、障害者就業・生活支援センター等では、精神科医療機関との回答がもっとも多くみられた。就労支援だけでは難しく、生活支援や保健医療との連携が重要となるとと思われる。

また、家族の不安を解消する、あるいは家族と本人への関わり方を一緒に考えていくために、家族を対象とした相談支援も並行して行うことが重要な課題であると考えられる。

一方で、近年、ひきこもり状態を示すものの中には、発達障害のある人が少なくないという報告がある。今回の調査でも、ひきこもりの就労相談の中で、アスペルガー症候群などの発達障害の診断を受けている方がいると、145か所(29.1%)が回答している。特に、若者サポートステーションでは、41か所(77.4%)があると回答している。ひきこもりのどの程度が発達障害であるのかは明確では無いが、現状の生活支援や就労支援の枠の中で、十分な支援が困難であるひきこもり者の中には、発達障害のある方が決して少なくないと考えられる。ひきこもり者の支援は、発達障害に関する知識を有し、必要に応じて保健医療機関との連携を持つことが重要である。

ひきこもりの就労相談の中で、アスペルガー症候群などの発達障害の診断を受けている方に対しても、十分なコミュニケーションがもてない、本人に十分な就労能力がなく相談が進まないなどの問題があげられている。

ひきこもりについての研修等については、366か所(73.3%)が必要だと考えており、発達障害についての研修等については、438か所(87.8%)が必要だと考えている。ひきこもりについて研修等を受講する機会があると回答したものは、発達障害に関してのものに比較して少なく、今後、ひきこもりについての研修も必要となってくると思われる。

ひきこもりの相談や課題についても、多方面からの問題点があげられてはいる。ひきこもりの方の就労支援に関するネットワークや連絡協議会

等に関しては、あると回答したものは93か所(18.6%)にすぎず、今後、ネットワークの構築や連絡協議会等の開催は早急の課題である。

今回の調査から、ひきこもりの就労相談は、ハローワーク等の一般相談と、障害者就業・生活支援センター等の障害者支援としての相談があるが、ハローワーク等の相談の中には、就労能力が不十分と考えられる場合や発達障害のある場合もみられ、障害者支援の方を紹介することも少なくない傾向にある。一方で、就労相談であっても、現実的には、本人が来所しない、就労意欲がない、コミュニケーションがもてないなど、就労以前の問題を有している場合もあり、保健医療機関との連携が必要なことに加え、家族支援のあり方、本人の生活支援や生活能力全般の向上などの訓練機関のあり方などが、今後の検討課題になると考えられる。

## E. 結論

1. 全国の就労相談・支援機関799か所を対象として、ひきこもりに関するアンケート調査を実施し、499機関(回答率62.5%)より回答を得た。
2. 半数以上の機関が、ひきこもり者の就労相談を受けていたが、相談は、本人よりもむしろ家族からの方が多く見られた。相談に関しては、全体の303か所(60.7%)が、就労能力がない、十分なコミュニケーションがもてないなど、困ることがあると回答している。
3. 困難なものとしては、「家族のみ相談に来て、本人は来ない」「家族と本人に意思の食い違いがある」「本人に就労意欲がない」「本人が話をしない」などの就労支援だけではなく、生活支援の必要性など課題が多くあげられている。
4. 困ったときの紹介・相談機関として、ハローワーク等では、障害者就業・生活支援センター等を、障害者就業・生活支援センター等では、保健医療機関等を多くあげている。今後、保健医療との連携が重要な課題になると思われる。
5. ひきこもりの就労相談の中で、アスペルガー

症候群などの発達障害の診断を受けている方が  
あると 29.1%が回答、特に、若者サポートステ  
ーションでは、77.4%があると回答しており、ひ  
きこもりの就労支援に関しては発達障害者への  
支援も考慮が必要である。

6. ひきこもりについて研修等を受講する機会は  
少なく、今後、ひきこもりについての研修も必要  
となってくると思われる。

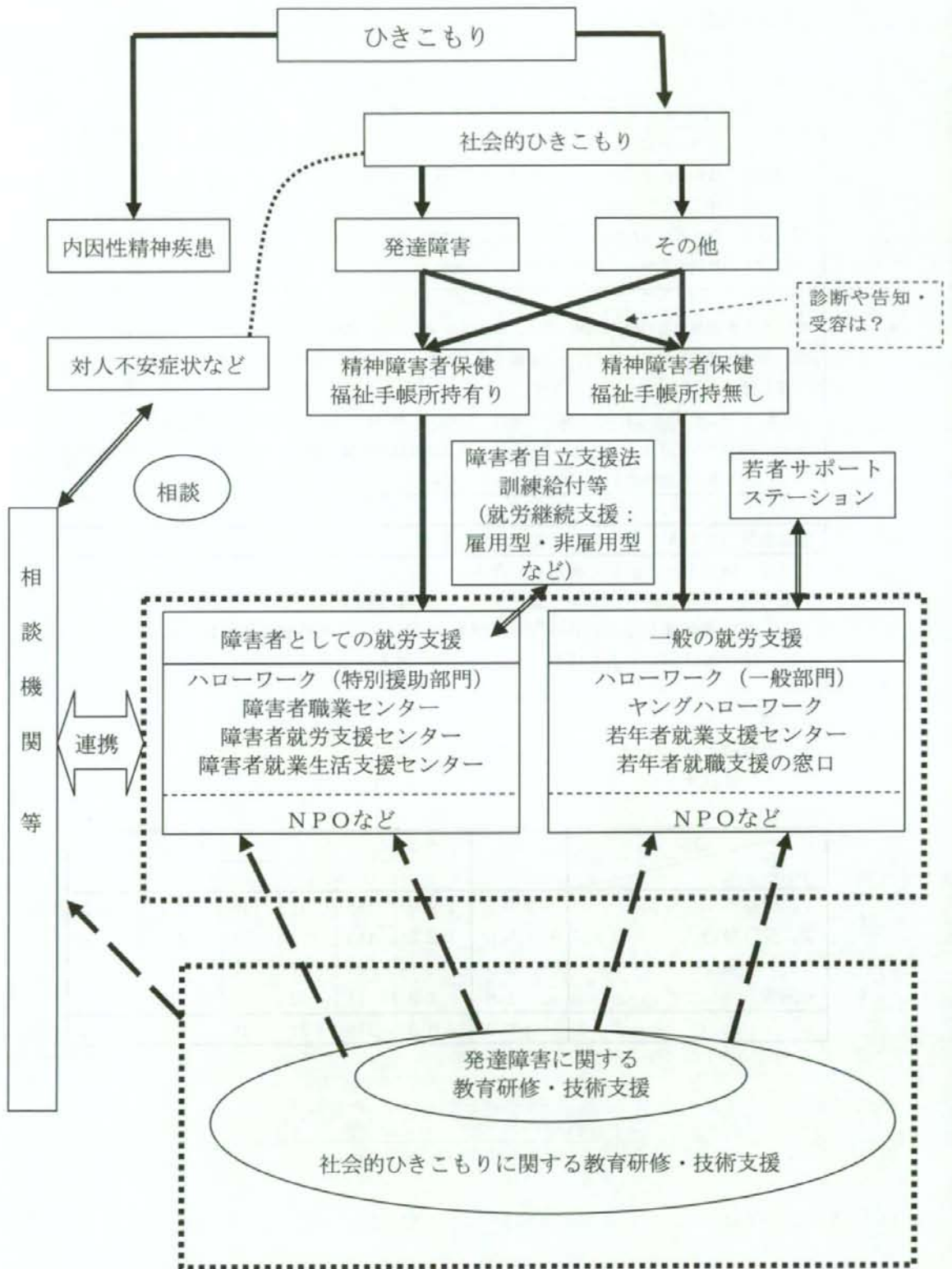
7. ひきこもりの相談や課題について多方面から  
の問題点があり、ネットワークの構築や連絡協議  
会等の開催は早急の課題である。

8. 今後とも、ひきこもりの就労相談の問題点、  
あり方について、検討が必要である。

#### 文 献

1) 原田豊、川口栄、大塚月子：ひきこもり青  
年の就労支援に関する研究：「思春期のひきこも  
りをもたらす精神科疾患の実態把握と精神医学  
的治療・援助システムの構築に関する研究」平  
成 19 年度報告書、こころの健康科学研究事業、

図1. ひきこもり者への就労支援



アンケート調査票

アンケートの記入上のお願い

- 1) 該当項目の数字を○で囲んでください。
- 2) ( ),  内に、回答をご記入ください
- 3) 平成20年7月31日現在の状況でお答えください。

本研究における「社会的ひきこもり」の基準は、下記の、伊藤らによる「社会的ひきこもり」に関する相談・援助状況実態調査報告を参考にしてください。

- ① 自宅を中心とした生活
- ② 就学・就労といった社会参加活動ができない・していないもの
- ③ 以上の状態が6か月以上続いている

ただし、

- ④ 統合失調症などの精神病圏の疾患、または中等度以上の精神遅滞 (IQ55-50) をもつ者は除く
- ⑤ 就学・就労はしていなくても、家族以外の他者 (友人など) と親密な人間関係が維持されている者は除く。

(出典:『「社会的ひきこもり」に関する相談・援助状況実態調査報告 (ガイドライン公開版)』、「10代・20代を中心とした「ひきこもり」をめぐる地域精神保健活動のガイドライン」こころの健康科学研究事業「地域精神保健活動における介入のあり方に関する研究 pp114-140,2003)

施設名称 (差し支えなければご記入ください)

該当する機関を、下記から選んでください。

- ① 公共職業安定所 (ハローワーク)
- ② 学生職業相談室 (ヤングハローワーク)
- ③ 若年者就業支援センター (ジョブカフェ)
- ④ 地域障害者職業センター
- ⑤ 障害者就業・生活支援センター
- ⑥ 若者サポートステーション

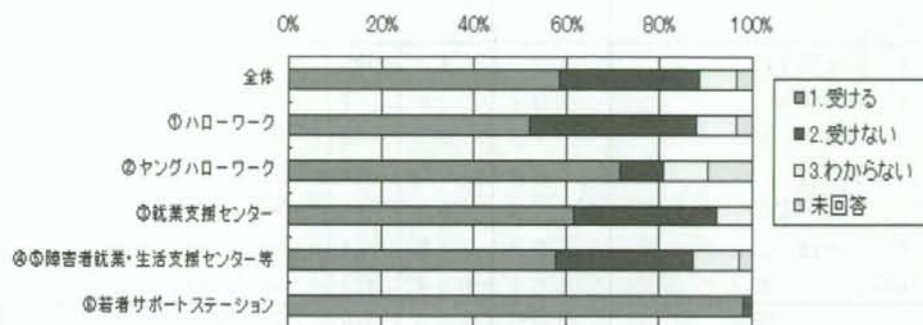
質問

(1) 貴施設では、「ひきこもり」の方の就労相談を、本人から受けますか。

- 1, 受ける      2, 受けない      3, わからない

回答 \ 機関	計	①+②+③			④+⑤	⑥	
		①	②	③			
1, 受ける	292	196	165	15	16	41	52
2, 受けない	150	123	113	2	8	21	1
3, わからない	39	31	27	2	2	7	0
未回答 など	18	13	11	2	0	2	0
計	499	363	316	21	26	71	53

(1)ひきこもり本人からの相談

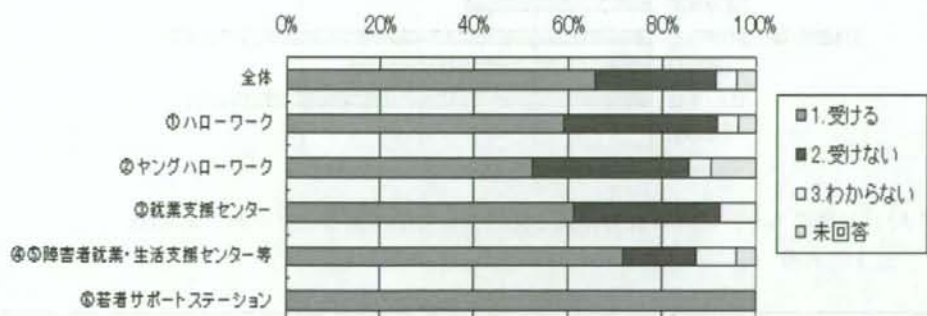


(2) 貴施設では、「ひきこもり」の方の就労相談を、家族から受けますか。

- 1, 受ける      2, 受けない      3, わからない

回答	機関	計	①+②+③			④+⑤	⑥	
			①	②	③			
1, 受ける		328	216	187	11	18	51	53
2, 受けない		129	117	103	7	7	11	0
3, わからない		22	16	14	1	1	6	0
未回答 など		20	14	12	2	0	3	0
計		499	363	316	21	26	71	53

(2)ひきこもり家族からの相談



(3) それは、他からの紹介（正式な紹介でない者を含む）ですか。（複数回答可）

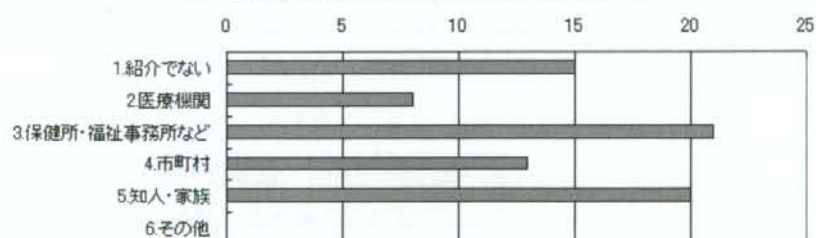
- 1, 紹介でない      2, 医療機関  
 3, 保健所・福祉事務所など      4, 市町村  
 5, 知人・家族      6, その他 ( )

機関 回答	計	①+②+③			④+⑤	⑥	
		①	②	③			
1, 紹介でない	193	142	125	8	9	15	31
2, 医療機関	37	8	7	0	1	8	20
3, 保健所・福祉…など	75	25	23	0	2	21	27
4, 市町村	60	20	16	1	2	13	25
5, 知人・家族	119	62	48	6	8	20	35
6, その他	84	43	31	4	9	0	23
未回答 など	151	134	123	4	7	22	2
計	499	363	316	21	26	71	53

(3)-1. 紹介もと(①②③)ハローワーク等)



(3)-2. 紹介もと(④⑤)障害者就業・生活支援センター等)



(4) 「ひきこもり」の方の就労相談を受けて、対応に困ることがありますか。

1, ある      2, ない,      3, わからない

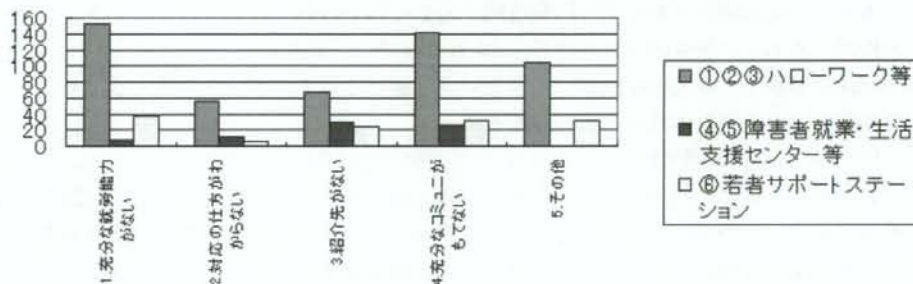
機関 回答	計	①+②+③			④+⑤	⑥	
		①	②	③			
1, ある	303	203	170	14	19	46	47
2, ない	27	19	16	1	2	4	4
3, わからない	94	80	76	2	2	12	1
未回答 など	75	61	54	4	3	9	1
計	499	363	316	21	26	71	53

(5) 具体的には、どのようなことに困りますか。(複数回答可)

- 1, 本人に十分な就労能力がなく相談が進まない    2, 対応の仕方がわからない  
 3, 紹介先がない    4, 十分なコミュニケーションがもてない  
 5, その他

機関 回答	計	①+②+③			④+⑤	⑥	
		①	②	③			
1, 就労能力がない	226	152	126	11	15	32	37
2, 対応仕方がわからない	71	56	50	3	3	8	5
3, 紹介先がない	106	67	59	5	3	12	25
4, コミュニがもてない	206	142	119	4	16	30	32
5, その他	164	104	87	9	8	26	31
未回答 など	140	118	107	5	3	13	4
計	499	363	316	21	26	71	53

(5) 具体的に対応に困ること



その他について、具体的にお書きください。

(代表的な意見を、一部抜粋)

- 家族のみ相談に来て、本人は来ない。
  - ・ 家族のみの相談のため本人の意思等が確認できない。
  - ・ 家族ではなく、本人が窓口に来所しない。
  - ・ 家族からの相談後、本人と会うことができず、進まない。
- 家族と本人に意思の食い違いがある。
  - ・ 家族が同行して来所するケースが多いが、家族は就労させたい意向が強いが、本人が就労する意欲に欠ける。
  - ・ 親が子供さんの状態を理解してなく就労を早めているケースが多い。
  - ・ 同居者(親等)は熱意があるが、当事者に就労意欲が無く、相談ができない。
- 本人に就労の意欲がない。
  - ・ 本人の就労に対する意思、意欲が把握しにくい。



- ・本人の職業意欲が分かりづらいことがある。周りに促されて来所するケースが多く、就労意欲はあまり高くはないと思われる。職業相談以前の問題である。
- 本人が話をしない。
  - ・本人が、自ら話そうとしないため、次の段階へ進まない。
- 本人の能力（コミュニケーションや経験など）不足がある。
  - ・就労相談の前に他機関等利用により、一般的な社会生活を送れることが就活時の最低条件である。
  - ・経験が少なく生活自立できていない。
  - ・本人が相談に来て十分なコミュニケーションがもてずに本人の適性や希望、意欲を把握するまでには至らない場合もある。相談来所のみでは、就職しても各ステージで困難が積みまってくる。
  - ・本人の職業準備性が低く、職業または就労について具体的なイメージを持っていないために、当センターの支援にのれない場合が、まみられる。
- 本人の理想との食い違いが大きい。
  - ・本人が思う自身の就労能力と実際の能力のギャップが大きい。
  - ・相談者の認識と現状に差があるが、それを理解していない。
- 相談が継続しない、関係を築きにくい。
  - ・本人との信頼関係を築くまでに長時間、もしくは多数回の面接を必要とする。
  - ・相談してもその後来所しなくなる。（本人のみでは、来所しなくなる。）
  - ・相談の過程で、本人や家族が「できない」と感じてしまい相談が中断する。
- 相談をうける側の体制が不十分である。
  - ・「ひきこもり」の担当がいない。
  - ・ひきこもり状態の原因が、精神疾患、発達障害、またそれ以上にあるのか医師や専門のカウンセラーでないため診断できない。その為、相談者に本当に就労意欲があるのか、また能力は有無だけでなく有の場合、どの程度まで出来るのか判断が難しい。
  - ・専門的に対応できるカウンセラー等の配置がなく専門外のものが対応することは本人のために不適切である。
- 疾病や障害の可能性を感じるが対応できない。
  - ・本人、親（保護者）に十分な障害認知、受容がない。
  - ・発達障害の疑いがある方などは、本人にその自覚がなければ、自立に向けた支援をしても、うまくいかないことが多いです。
  - ・精神疾患や、発達障害が疑われる者が含まれるが、本人や家族に、その時間がなかったり、（知識不足からくるとと思われる）偏見を持っていたりする事で、専門機関を紹介するまでに至らないケースがある。
- 十分な就労環境がない。
  - ・本人に就労する意欲がある場合でも、企業側の理解がなかなか得られず、就職先を見つけるのに時間がかかってしまう。
  - ・ご本人の意欲・就職スキルが向上した時に、長いブランクがあっても良しとする企業が極めて少ないこと。
  - ・就職体験の機会は提供できるが、実際の就職先が提供できない。

●背景に様々な問題を抱えている。

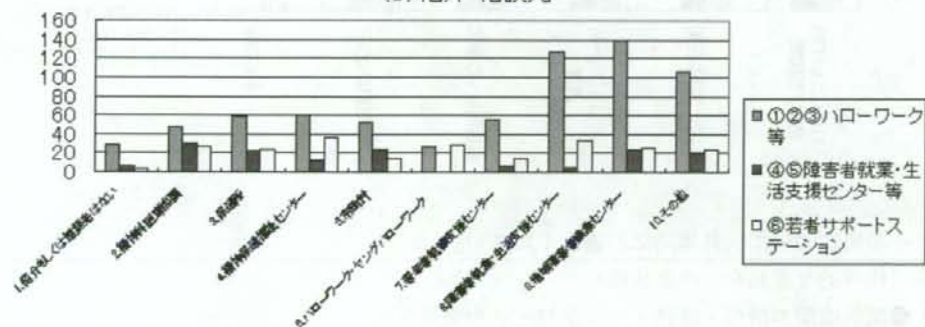
・本人との相談。カウンセリングを進めていくと、複合的な問題を抱えていることが多く、解決には時間が必要と感じられる。

(6) 対応に困ったとき、紹介もしくは相談する機関がありますか。該当するものをすべて選んでください。(複数回答可)

- |                     |                |
|---------------------|----------------|
| 1, 紹介もしくは相談先はない     |                |
| 2, 精神科医療機関          | 3, 保健所         |
| 4, 精神保健福祉センター       | 5, 市町村         |
| 6, ハローワーク・ヤングハローワーク | 7, 若年者就職支援センター |
| 8, 障害者就業・生活支援センター   | 9, 地域障害者職業センター |
| 10, その他             |                |

機関 回答	計	①+②+③			④+⑤	⑥	
		①	②	③			
1, 紹介・相談先はない	37	28	27	1	0	6	3
2, 精神科医療機関	107	48	44	3	1	30	27
3, 保健所	105	59	55	2	2	22	24
4, 精神保健福祉センター	109	60	44	2	13	13	36
5, 市町村	92	53	51	2	0	23	14
6, ハローワーク等	81	27	13	5	9	0	29
7, 若年者支援センター	80	55	48	6	1	7	15
8, 障害者就労センター等	168	126	115	4	7	5	34
9, 障害者職業センター	192	139	126	6	7	23	25
10, その他	155	106	78	6	22	21	24
未回答 など	76	66	59	5	2	16	1
計	499	363	316	21	26	71	53

(6) 紹介・相談先



その他について、具体的にお書きください。

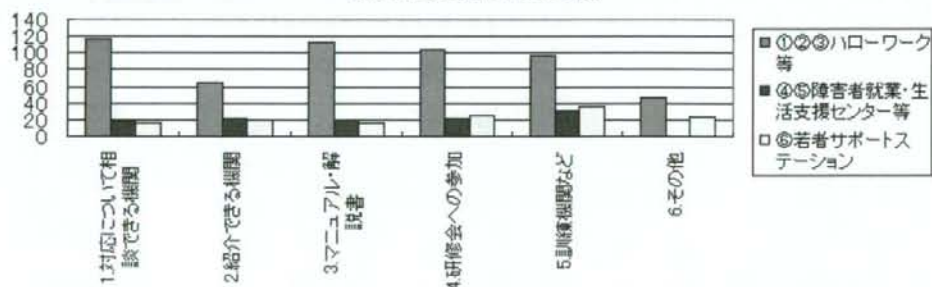
若者サポートステーション、若者自立塾  
発達障害者支援センター、就労移行支援事業者 など

(7) 貴施設での「ひきこもり」相談対応において、どのようなことが必要ですか。(複数回答可)

- 1, 対応について相談する機関
- 2, 紹介する機関
- 3, 相談員向け「ひきこもり」の方への対応マニュアル、解説書など
- 4, 「ひきこもり」の理解と対応など相談員研修会など
- 5, 就労能力が充分にない方への訓練機関など
- 6, その他

回答	機関	計	①+②+③			④+⑤	⑥	
			①	②	③			
1, 対応する相談機関		156	117	107	4	6	18	16
2, 紹介する機関		110	64	50	5	9	22	20
3, マニュアル・解説書		153	113	100	5	8	19	17
4, 相談員研修会		155	104	94	1	7	22	25
5, 訓練機関		167	97	83	7	7	31	36
6, その他		81	46	37	1	8	0	24
未回答 など		74	63	53	6	3	11	1
計		499	363	316	21	26	71	53

(7)必要と思われる支援



その他について、具体的にお書きください。

(代表的な意見を、一部抜粋)

- 関係機関の情報・連携・ネットワークの構築など。
- ・ 連携体制、サポートのネットワークの構築は必要 (ワンストップでは適切なサポート

は困難)。

- ・組織として連携ができていれば、よりスムーズに適切な機関が案内できる。
- ・家庭訪問などを保健所が行っており、そこでの連携をもっと密にしていこうと思う。ひきこもりの中に発達障害や精神疾患をもっておられる方がいる可能性があるため、そういったことの基本的知識は不可欠。

●対応マニュアル・研修など。

- ・ひきこもりという状態で本人と相談しあうことが可能なのかどうか。ひきこもり状態では本人よりもその親と相談することが多くなると思われるが、本人抜きでの相談で、どのようなことを伝えるべきなのかマニュアルがほしい。
- ・発達障害がある人の就労支援の対応マニュアルがほしい。基本的には一人ひとり背景が違うと思う(発達障害にかかわらず)。
- ・家庭生活においてよい環境をアドバイスするノウハウがほしい。

●相談・訓練・生活場所の提供。

- ・コミュニケーション訓練が気軽に受けられる所が必要(費用を要しないこと)。
- ・家族環境が問題のあるケースも多いため、その問題を解決できる相談機関や相談員が必要。
- ・基礎的なコミュニケーショントレーニング、ストレス解消法など、を指導、アドバイスできる機関。
- ・ひきこもりに限らず、就労能力(単なる作業能力だけではなく、マナー・コミュニケーションも含めて)が欠落している求職者の対する、何らかの集団訓練は必要だろうと思う。
- ・相談内容によって細分化せず包括的に相談・研修、訓練までを担えるような総合的な機関が必要と思われます。
- ・「ひきこもり」の状態にある方の場合、まずは安心して出かけていける居場所が、小さな単位の地域にたくさんあることが必要だと思います。
- ・職業訓練など必要であると思われます。

●訪問機関。

- ・ハローワークでは無理ですが(現状では)本人宅へ出向くことが必要と思われる。
- ・アウトリーチに力を入れている機関。

●本人家族側の問題・啓発。

- ・職業意欲・職業能力の判断、社会参加を志す者(本人)に対する家族の理解と適確な助言。

●就労先への働きかけなど。

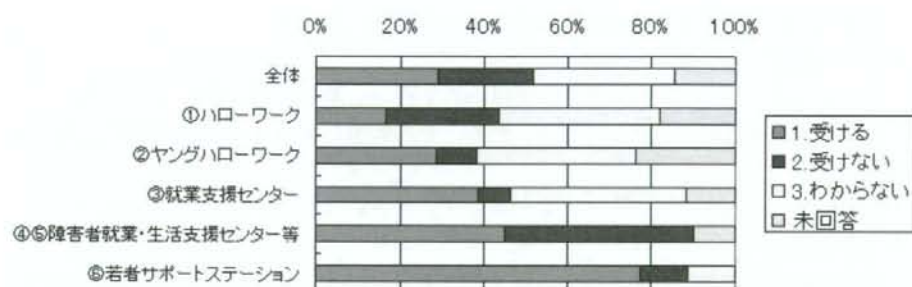
- ・職場見学体験。実習に協力してくれる事業所を増やす(体験・実習を実施中)。
- ・次第に社会性が身につけていっても実習機関(企業)が少ない。

(8)「ひきこもり」の就労相談の中で、アスペルガー症候群などの発達障害の診断を受けておられる方がありますか

- 1, ある                      2, ない                      3, わからない

機関 回答	計	①+②+③			④+⑤	⑥	
		①	②	③			
1, 受ける	145	69	53	6	10	31	41
2, 受けない	113	88	84	2	2	18	6
3, わからない	168	141	122	8	11	18	6
未回答 など	73	65	57	5	3	4	0
計	499	363	316	21	26	71	53

(8) AS本人からの相談



(9) 「ひきこもり」の就労相談の中で、アスペルガー症候群などの発達障害の方の対応に困ることがありますか。

- 1, ある      2, ない      3, わからない

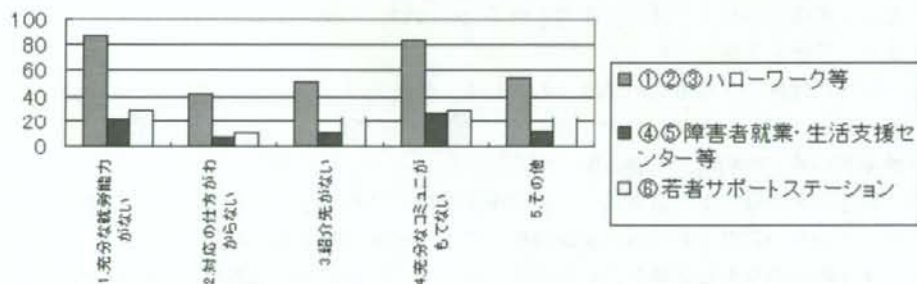
機関 回答	計	①+②+③			④+⑤	⑥	
		①	②	③			
1, ある	158	83	63	8	12	31	41
2, ない	86	69	66	1	2	13	4
3, わからない	167	138	121	8	9	19	5
未回答 など	88	73	66	4	3	8	3
計	499	363	316	21	26	71	53

(10) 具体的に、どのようなことで困りますか？該当するものをすべて選んでください。  
(複数回答可)

- 1, 本人に十分な就労能力がなく相談が進まない      2, 対応の仕方がわからない  
 3, 紹介先がない      4, 十分なコミュニケーションがもてない  
 5, その他

機関 回答	計	①+②+③			④+⑤	⑥	
		①	②	③			
1, 就労能力がない	141	87	67	10	10	21	29
2, 対応仕方がわからない	60	42	36	2	4	7	10
3, 紹介先がない	85	51	45	3	3	10	23
4, コミュニがもてない	142	84	67	3	11	27	29
5, その他	93	55	47	2	6	12	23
未回答 など	256	212	190	11	11	28	10
計	499	363	316	21	26	71	53

(10)具体的に



その他について、具体的にお書きください。

(代表的な意見を、一部抜粋)

- 本人が来所しない。生活リズムの不安定。
  - ・家族から相談を受けても本人が来所しない場合、職業相談に至らず具体的な支援が出来ない。
  - ・生活のリズム等、就業生活の基盤が整っていないことがある。
- 対応の難しさ。
  - ・言葉を選ばないとこちらの意図が伝わらない(ひゆ表現など)。
  - ・高次機能障害や自閉・アスペルガー症候群などの方については、一般相談窓口での対応は難しく、障害者担当(専門援助)での就労支援となるが、境界線上(わからない)の方への取り扱いが確立されていない。
  - ・こだわりが強く、毎日決った行動を行ってからではないと、相談に来れない。
  - ・アスペルガー症候群と診断された方の相談が増えています。各々性格も違い、アスペルガーにも症状がいろいろあると驚いているところです。家族が対応に困って相談に来るケースがほとんどで本人が直接というのは少ないです。就労以前のコミュニケーションを図り関係性を構築することからと心がけています。
  - ・失敗経験が多く、自己否定をし、無気力になっている。

- ・発達障害の概念をよく知らない職員だと本人の反応に戸惑ったり、「怠けている性格が悪い」などの誤解をすることも多い。
- ・段階を踏んでの就職支援計画が立てられず相談者の思いに、どこまで寄り添っていきけるかが課題になる。
- 就労先の課題。
  - ・理解のある企業が少ない。
  - ・職場が理解を示してもらえば仕事に就けることと思います。
  - ・特に発達障害を理解している企業が少ない為、障害者枠での紹介が出来ない。
  - ・本人には就労意思があるにもかかわらず、特性を生かせる場（職場も含む）が無く、支援の限界を感じる。
  - ・アスペルガーだけではなく、発達障害の方は能力の低さが問題ではなく、適切な職に出会えるかが課題。さらに言えば、場の読めなさなどから不応状態になることが一番危惧される。診断が下りていても、精神の手帳のほうより肢体のほうへ、障害者枠は優先される傾向があり、結局、能力も低くないので、一般のほうでと言われてしまう。つまり、診断を考慮してもらえない。
  - ・障害に理解のある事業所がほとんどなく、受入先がなかったり、どのように協力してもらえるかがわからない。
- 障害の有無の判断、受容に関して。
  - ・発達障害の疑いがある方についての障害受容。ひきこもりであるが、本人はまったく困っていない状況での支援。相談機関のアドバイスを聞き入れない。
  - ・発達障害が判明した場合、その障害受容に対する働きかけは容易にはいかない。
  - ・既に、発達障害の診断を受けて、相談に来た方の支援はスムーズに障害者支援施設を紹介できることが多い。まれに、家族、親戚が、手帳取得や障害者支援を拒むことがあり、理解を得るのに苦労することもある。
  - ・診断を受けていれば、紹介できるが本人の自覚なく、診断を受ける先もないときは、相談から進まないことが多い。
  - ・障害の有無についてご本人から申し出が無い場合、こちらからお尋ねするのは通常困難です。
  - ・発達障害か否か、その判断は難しく、又、安易に行うべきではない。
  - ・ハローワークの相談窓口では、発達障害があると本人からの申告がなく数回の相談を重ねることによって「疑いがある」程度の把握しかできない。
  - ・精神障害者福祉手帳の発給等をすすめるべきか、支援者（ジョブコーチ）などと連携をすすめるべきか、判断がしがたい 又、本人や家族への説明が十分にできない。
  - ・受診を受けてみるように勧めるタイミングの把握。
- 診断できる人の不足。
  - ・アスペルガー症候群の適正診断をして下さる医師の人数がたりない。
  - ・発達障害の専門家。医師不足である。
- 制度・支援上の問題。
  - ・職場適応のための訓練機会が少ない。
  - ・特徴を十分に促えた受け皿がない。

(11) 「ひきこもり」の就労相談の中で、診断はついていないが、発達障害が疑われる方が  
あります。

- 1, ある                      2, ない                      3, わからない

機関 回答	計	①+②+③			④+⑤	⑥	
		①	②	③			
1, ある	228	130	103	11	16	44	51
2, ない	53	41	38	1	2	11	1
3, わからない	135	121	111	5	5	8	1
未回答 など	83	71	64	4	3	8	0
計	499	363	316	21	26	71	53

(12) (11) の方の就労相談の中で、対応に困ることがありますか。

- 1, ある                      2, ない                      3, わからない

機関 回答	計	①+②+③			④+⑤	⑥	
		①	②	③			
1, ある	220	130	103	11	12	41	46
2, ない	48	36	33	1	2	7	4
3, わからない	110	97	88	5	9	9	0
未回答 など	121	100	92	4	3	14	3
計	499	363	316	21	26	71	53

(13) (12) について、具体的に、どのようなことで困りますか？該当するものをす  
べて選んでください。(複数回答可)

- 1, 本人に十分な就労能力がなく相談が進まない      2, 対応の仕方がわからない  
3, 紹介先がない    4, 十分なコミュニケーションがもてない  
5, その他

機関 回答	計	①+②+③			④+⑤	⑥	
		①	②	③			
1, 就労能力がない	150	96	73	10	13	22	30
2, 対応仕方がわからない	59	39	30	4	5	7	11
3, 紹介先がない	91	55	47	3	5	12	23
4, コミュニがもてない	146	99	77	4	14	23	23
5, その他	102	52	41	3	8	17	30
未回答 など	237	199	182	9	8	26	6
計	499	363	316	21	26	71	53



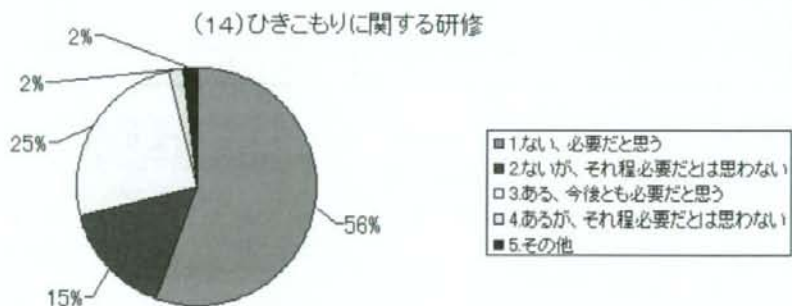
その他について、具体的にお書きください。

略
---

(14) これまでに、「ひきこもり」について研修等を受講する機会がありますか。必要だと感じますか。

- 1, ない, 必要だと思う                      2, ないが, それ程必要だとは思わない  
 3, ある, 今後とも必要だと思う          4, あるが, それ程必要だとは思わない  
 5, その他

機関 回答	計	①+②+③			④+⑤	⑥	
		①	②	③			
1, ない, 必要だと思う	252	195	177	11	7	44	9
2, ない, 必要でない	70	59	52	4	3	6	4
3, ある, 必要だと思う	114	57	41	2	14	18	37
4, ある, 必要でない	9	5	5	0	0	1	2
5, その他	9	8	7	0	1	0	1
未回答 など	45	39	34	4	1	2	0
計	499	363	316	21	26	71	53



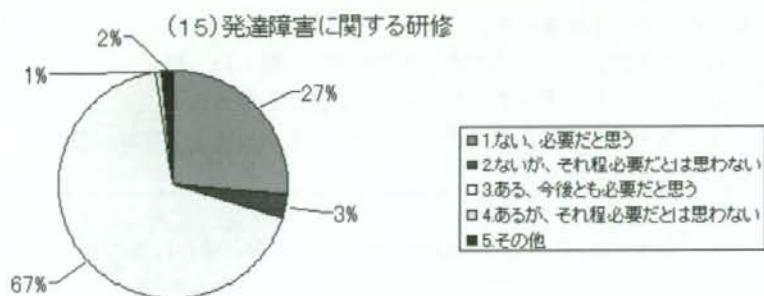
その他について、具体的にお書きください。

--

(15) これまでに、「発達障害」について研修等を受講する機会がありますか。必要と思いますか。

- 1, ない, 必要だと思う                      2, ないが, それ程必要だとは思わない  
 3, ある, 今後とも必要だと思う          4, あるが, それ程必要だとは思わない  
 5, その他

機関 回答	計	①+②+③			④+⑤	⑥	
		①	②	③			
1, ない, 必要だと思う	123	107	91	7	9	4	10
2, ない, 必要でない	15	14	8	4	2	0	0
3, ある, 必要だと思う	315	206	189	6	11	64	39
4, ある, 必要でない	4	2	2	0	0	0	2
5, その他	8	6	4	0	2	1	1
未回答 など	34	28	22	4	2	2	1
計	499	363	316	21	26	71	53



その他について、具体的にお書きください。

(代表的な意見を、一部抜粋)

- ・精神疾患を併発している場合が多いため、医療機関との連携が必要。
- ・家族などへの対応については、必要でぜひ準備したい。
- ・完全な「ひきこもり」では、ハローワークの一般就労相談には無理がある。ある程度、準備ができての方が対象になると思われる。
- ・ひきこもりは社会問題になっているが、それに対する認識は充分ではない。就労可能な人も相当数いると思われるので、研修は必要である。

(16)「ひきこもり」の相談を受けて、困ったことがありましたらお書きください。

(代表的な意見を、一部抜粋)

- ・就労以前の問題が多く、ハローワークでは対処しがたい。
- ・ご本人の理想と、社会で働くことの現実があまりにかけ離れていることがある。そのギャップをうめるのには、個別相談のみでは限界を感じる。
- ・本人と職業相談をする時に、発する言葉が少なく表情がほとんど変わらなかったの、どの位話が伝わっているのか不安になった。
- ・今の状態をすぐに解消したいという、あせりが見られる。

- ・家族の方が悩みの結果相談に来所され状況は把握できても、当の本人と面談ができなければ、始まらない。
- ・コミュニケーション能力が乏しいため、本人との相談が一方通行になりがち。
- ・「ひきこもり」や「障害」について、自己理解や障害に対する受容ができていないと就労は難しいと思います。
- ・本人の気持ちを充分組みとりながら、こちらの意見を押しつけず、引きすぎず、微妙なバランスを取りながら意欲を継続させることは難しいです。
- ・就職相談について。親が高齢化しており、何とか本人に就職してほしいと来所するが、ハローワークにすればすぐ就職できるという思い込みが強い方が多い。
- ・就業訓練を希望されたが、訓練校のカリキュラムに耐えられる程の準備ができていなくて不調に終わった。
- ・「就労可能」と判断する以前の問題なのでハローワークとしては的確に支援出来る関係機関の情報を提供したい。
- ・社会的参加に繋がる具体的な方法の提示が難しい。紹介等に支障をきたしており、「ひきこもり相談等のネットワーク」の充実が望まれる。
- ・生産性を求める事業主に対して「ひきこもり」をどう理解して対応してくれるか大変な作業である。

(17) 今後、「ひきこもり」相談において、必要と思われることがありましたらお書きください。

(代表的な意見を、一部抜粋)

- ・ひきこもりへの理解を深めること。ひきこもりから就職、就労に至った事例により、どのような取り組みがあったかを知ること。本人が相談に来られることは難しい場合が多い。家族、周囲の方の相談を受けるという形での就労相談とその周知は必要と思われる。
- ・関係機関との連携の強化。
- ・「ひきこもり」について市町村の窓口を決めてもらいたい。常に専門の方が相談できるように。
- ・本人が良いと思ってくれそうな利用しやすい相談場所の確保。
- ・本人が家から出られないので、直接家庭に伺って長期にわたって支援をしていくことが必要。また本人だけでなく、家族もかなり不安をもっており、どちらにも対応できる人がよいと思う。
- ・「ひきこもり」や「障害」について、自己理解や障害に対する受容ができていないと就労は難しいと思います。
- ・受入企業の理解が必要。
- ・発達障害に関する知識が必要だと思います。
- ・研修でも資料でもよいので何か参考になるものがほしいです。

(18) これまでに、「ひきこもり」相談の中で、発達障害もしくはその疑いのある方に対して、困ったことがありましたら、お書きください。

略 (16) の回答と一部重複

(19) 貴施設に関連して、「ひきこもり」の方の就労支援に関するネットワークや連絡協議会等がありますか。必要と思いますか。

- 1, ある  
2, ないが、計画中  
3, ないが、必要だと思う  
4, ない、特に必要性は感じない  
5, その他

機関 回答	計	①+②+③			④+⑤	⑥	
		①	②	③			
1, ある	93	47	32	4	11	6	38
2, ない、計画中	4	3	1	0	2	0	1
3, ない、必要と思う	228	172	159	6	7	43	10
4, ない、必要でない	86	73	66	5	2	11	1
5, その他	30	19	15	2	2	7	2
未回答 など	58	49	43	4	2	4	1
計	499	363	316	21	26	71	53

その他について、具体的にお書きください。

(19-2) (18) で、1, ある もしくは、2, 計画中と回答された方で就労支援に関するネットワークや連絡協議会等の具体的な会の名称、主催者等について、お書きください。

(20) その他、貴施設の管内で、ひきこもりの就労支援等に取り組んでいる機関・団体等(例:NPO法人「〇〇の会」など)がありましたら、具体的にお書きください。

※アンケートはここまでです。御協力ありがとうございました。